

妹はおにーちゃんが好きすぎて  
ひたすら犯しちゃうの  
特典台本

／＼★タイトルコール／イントロダクション

「ばちばちぼいす」

「妹はおにーちゃんが好きすぎてひたすら犯しちゃうの」

「主人公である兄が大好きでいつも世話焼きをしてくれる妹」

「『しょうがないなあ』と怒ったように言うものの、それは恋心を隠すためにうまく感情を表現できないから――」

「そんなある日、おにーちゃんが他の女の子に告白されて断ったと聞いた妹。」

「『よし、おにーちゃんを私のモノにするって決めた！ 私もおにーちゃんが大好きなの！』と優しいおにーちゃんに告白することに……。」

／＼トラックーおにーちゃんを拘束！

●おにーちゃんの部屋（夜）

「（ドアの向こうから）おにーちゃん、いるー？」

「もー、いるじゃん。返事くらいしてよー」

「あ、勉強してたんだ。おにーちゃんって真面目だよねー。（間を開けて）ううん、ダメじゃないよ？」

「（小さな声で）……そーゆーところも好きだしー……」

「ううん。何でもなーいっ。それより、ちょっと話があって……。あのさ、おにーちゃん、また告白されたって聞いたんだけど……」

「……あ、やっぱりホントなんだ。えっ？ すぐ断っちゃったの？ なんで!？」

「なあに？ 勉強に集中したいからまだそういうこととは考えてないって？ ふーん……」

---

唯

「でも、最近告白されることが増えたよね？ みんな、おにーちゃんの魅力に気づき始めたのかな？」

唯

「（小さな声で）……自然な流れでなんて待ってられないし、こうなったら……」

唯

「ねえ、おにーちゃん。ちよつとこっちに來て。そう、こっち。ベッドの側。それで少ししゃがんで。うん。そのくらい……」

唯

「そうしたら目を瞑ってもらえる？ 渡したいものがあるの」

唯

「ちゅっ……ちゅぶっ、ちゅっ……れろっ、ちゅう、ちゅぶっ……んっ、ちゅううううううう……！」

唯

「ちゅぱっ！ ……ふう。どうだった？ 私のキス……コーフンした？」

唯

「えっ？ 何するのかって……そんなの決まってるよ。えいっ」

唯

「んしょつと……。こういうの馬乗りってゆーんだよね？ おにーちゃんを見下ろすなんて新鮮な力ンジ」

---

---

唯

「ん？ どうかないよ？ だって、私、知ってるもん。おにーちゃんはダメだって言いながら、最後は絶対に私の言うことを聞いてくれるって」

唯

「告白を断ったのも、本当は付き合ったりしたら、私が悲しむって知ってたからだよね？」

唯

「えへへ。優しいおにーちゃん。気付いてたと思うけど、私もおにーちゃんのこと大好きなの」

唯

「……私の言う事……聞いてくれるよね？」

唯

「今だ。えいっ」

唯

「足首にも、えいっ」

唯

「えへへ。おにーちゃんの枕の下に隠して置いたんだ。手錠を二つ。おにーちゃんの両手と両足を拘束しました。これで逃げられないからねー」

唯

「ん？ 今の涙？ もちろんウソ泣きだよ。ほら、目薬。部屋に入る直前につけておいたんだー。上手だったでしょ？」

唯

「……でもね、心の中では泣いてたんだよ……おにーちゃんが他の子に取られちゃうって……怖くて……」

唯

「……だから、もう決めたの。おにーちゃんを私のモノにするって……」

---

唯 「……ふふふっ。何をするかなんて決まってるよー  
……もちろん……」

唯 「（耳元で囁くように）……セックス、だよ？」

唯 「（耳元で囁くように）……おにーちゃんは、トー  
ゼン初めてだよね？ ん？ そっか。よかった。  
もちろん私も初めてだから……」

唯 「（耳元で囁くように）……二人でがんばって素敵  
なセックスをしようね？ ふふふっ……」

／＼トラックのおにーちゃんにフェラ！

唯 「ほら。もうおっきくなってる。おにーちゃんも私  
としたかったんだ……。じゃあ、舐めてあげる  
ね。おにーちゃんのおちんちん……」

唯 「……え？ やり方、知ってるのかって？ そんな  
のネットを探したら、すぐ見つかるじゃん。いっ  
ぱい練習したんだから……」

唯 「んー？ どうやって練習したのかって？ ソー  
セージとかバナナとかだよ。どーお？ おにー  
ちゃん？ 妹の初フェラチオ……。試してみたく  
なーい？」

唯 「……ほら、見て。（舌を動かしながら）……ほん  
なふーにひらがうほいて……おにーひゃんのおひ  
んひんをなめるの……んっ……」

---

唯

「あ、ちょっとピクって動いた。かーわいー。今、しゃぶってあげるね。……はむっ……れろっ、んちゅっ……ちゅっ、れろれろっ……んんっ……ちゅぶっ、ちゅっ……」

唯

「んふふ……わらひのくひのなはれ、おひんひん……おっひくなってひた……うれひい……んっ……んぶっ……れろっ、れろっ……ちゅっ、れろっ……んぶっ、ちゅっ……」

唯

「んちゅっ、れろっ……ちゅ……ちゅぶっ……ちゅっ……ちゅぶっ……ちゅくっ……れろっ、ちゅっ……んちゅっ、ちゅっ……はあ……んちゅっ、れろっ……ちゅっ……」

唯

「ちゅぱっ！ やったあ！ おにーちゃんのおちんちん、すっごくおっきくなったあ！ これ、フル勃起、っていうんだよね？」

唯

「すーい、かたーいっ。血管、浮いてるー。この裏側の所とか、結構ホラーだね。グロいっていか。でも、おにーちゃんのおちんちんなら舐められるよ？」

唯

「んちゅっ……れろっ……ちゅっ……んっ……ん？ ここ？ ふーん、ここが気持ちいいんだ？ 裏筋ってゆーんでしょ？ 知ってるんだから」

---

---

唯

「じゃあ、いっぱいチュツチュしたげるね……ちゅぷ……んあっ……んんっ……あんっ……ちゅぱ……んあっ……んんっ……ちゅっ、れろっ……ちゅぷっ……」

唯

「ちゅぷちゅぶ……んんっ……ああっ……ちゅっ、れろっ……ちゅぷっ……はああんっ……ちゅっ……ちゅぱ……あんっ……れろっ……ちゅぶっ、ちゅっ……はあ……」

唯

「ん？ おしっこの穴から、なんか出てきたよ？……あ、これ知ってる。ガマン汁ってやつだよ。気持ちいいと出てくるんでしょ？」

唯

「おにーちゃん、ホントに感じててくれるんだ。嬉しいなー。えへへー。じゃあ、またしゃぶってあげるねー……はあむっ」

唯

「がまんひるも……いっひよに……なめてあえるから……んちゅっ……んちゅっ、れろっ、れろっ……ちゅっ、んくっ、んちゅっ……れろっ……ちゅぷっ、じゅりゅっ……」

唯

「はあ……おにーひゃんの、がまんひる……おいひい……ちゅ……ちゅぱ……ちゅ……ちゅぱ……ちゅう……じゅぷっ……くちゅちゅ……くちゅ……ちゅっ……ぷちゅ……」

---

---

唯

「じゅちゅっ……ちゅぷ……んあっ……んんっ……  
あんっ……ちゅぱ……んあっ……んんっ……  
ちゅぷっ、れろっ……ちゅっ、ちゅぷんっ……  
じゅりゅっ、ちゅっ……」

唯

「ちゅぱっ！ んー、だんだん慣れてきたかも。  
もっと激しくしてみるね……はあむっ」

唯

「んんっ、ちゅぷっ、れろっ、ちゅぱっ……！ ん  
ちゅっ、れろれろっ……！ んあむっ……ふっ、  
ちゅくっ、れろ、ちゅる……！ ちゅっ、じゅ……  
……！ んじゅ、ふっ……！」

唯

「はぶ、ん、ちゅっ……！ んちゅっ……！ れ  
ろっ、んぷっ……！ ちゅっちゅっ、れろれ  
ろっ、ちゅぷっ……！ れろっ、んちゅっ、れ  
ろっ……！ じゅりゅっ……！」

唯

「ちゅぱっ！ おにーちゃんを感じてる顔、かわい  
いなー。えへへ。私もコーフンしちゃうよ……  
んー、ちゅっ……！ ちゅぷっ、ちゅぱっ……ん  
ちゅっ、ちゅっ、れろっ……！」

唯

「ちゅぷっ、ちゅぱっ……！ んぷぷっ……ひも  
ひいいんらねー。んちゅっ……じゅぶっ、れろっ  
……！ ちゅぱ、ぷちゅ、んっ……！ んくっ、  
ちゅぷっ、じゅ……！」

---

唯

「はあ……美味しい……おちんちん、美味しい  
よお、おにーちゃんっ……！ もっと、もっと  
しゃぶるう……はあむっ……！ じゅちゅっ、  
ちゅぷっ、じゅりゅっ……！」

唯

「ちゅぷつ、ちゅぱつ……！　んちゅつ、ちゅつ、れろつ……！　ちゅぷつ、ちゅぱつ……！　ちゅつ……じゅぷつ、れろつ、ちゅぱ、ぷちゅ……！　んくつ、ちゅぷつ……！　」

唯

「はあっ……！　ちゅぷちゅぶ……！　んんっ……  
ああっ……！　はああんっ、あんっ……！　ちゅ  
ぱ、じゅぶ、んああっ……！　じゅりゅっ、  
ちゅっ、ちゅぷっ……！」

唯

「おひんひん、ぴくぴくひてきた……？　もうイキ  
おう？　いふれもイツていいはらね、おにーひや  
んっ……」

唯

「ちゅぷちゅぱ……！　んあっ、ああっ……ああ  
んっ、んあっ……！　ちゅば……！　んくっ、  
じゅぶっ……！　んんっ、じゅりゅっ……！  
ちゅぶっ、じゅぶっ……！　」

唯

「れほう！？ ん、らひで、おにーひゃんっ！  
せーひ、いっはい、らひてえっ……！　じゅ  
ぶっ、じゅりゅっ、じゅぶぶぶぶぶぶぶぶぶ……  
……………」

唯

「んぶっ!？ んぐっ!？ んぶっ! んんっ!ー！  
んんんんんんんんんんんんんんんんんんん  
ゝっ!ー!」

唯

「んぶっ! んぐっ! んんっ! んぶっ! ん  
ちゅっ、じゅりゅっ、じゅぶぶぶぶっ……!」

唯

「んっ! んぶっ、んんんんっ……んー……  
…」

唯

「(口の中に精液が残っている) ぶあっ! はあー  
……はあー……いっはいらひたね、おにーひゃん  
……」

唯

「いま、おにーひゃんのせーし飲むとほろ……見へ  
てあえるね……んー……ぐくっ!」

唯

「ふああああ……変な味……でも、いやじゃない…  
…あはあ……うっとりしちゃう……はあ……」

唯

「あー、射精したのに、まだ硬いままだー。これっ  
て私でコーンしてくれてるってことだね？  
すっごく嬉しいなー。えへへ」

／＼トラックおにーちゃんと初エッチ！

唯

「(耳元で囁くように) ……じゃあ、入れちゃう  
ね。おにーちゃんのおちんちん。だって、もう濡  
れてるんだもん。とっくにぐちよぐちだよ？  
私のおまんこ……」

---

唯

「（耳元で囁くように）……ああ、嬉しいな……  
やっとおにいちちゃんとひとつになれるよ……いっ  
ぱい中出ししてね……」

唯

「（耳元で囁くように）……ぜーんぶ受け止めてあ  
げるから……優しいおにーちゃんの精子、全部……  
私のおまんこで……」

唯

「……あっ！ んんんっ……！ おっきいおちんち  
んが……入って、来るっ……！ あっ、ああ  
ああ……！」

唯

「やあんっ……！ まだ入って来る、よっ……！  
んんんっ……！」

唯

「思ってたより……全然痛くないよ……ちょっと苦  
しいだけ……！」

唯

「いちおー、血は出てるけど……こんなもん？ つ  
て感じ……んんっ……！」

唯

「……えへへ。心配してくれるんだ、おにーちゃん  
……うっ、んっ……そーゆートコ……ホントに大  
好き、だよっ……」

唯

「んんんっ、あ、まだ入るっ……！」

唯

「うううっ……全部、入った？ 入った……よね？  
んんっ……」

---

---

唯

「じゃあ、動いてみるね……あっ……んくっ……  
はっ……んんっ、はうん……ああああっ、んんっ  
……はっ、あっ、んっ、ああああ……  
ひゃっ、あっ……やっ……!」

唯

「んっ、はっ……あああっ、んんっ……ああっ、は  
ああっ……!んっ、んっ!はっ……あああ……  
……んっ、あっ、あああ……!あふっ、んんっ……  
……ああ、んっ……!」

唯

「おにーちゃああああんっ……どうしよう……私、  
気持ちよくなってきたよお……あああ……!」

唯

「おにーちゃんはある……!?おにーちゃんは、  
ちゃんと、気持ち、いいっ……!?!」

唯

「ああ、嬉しいっ……!そんなに、気持ち、いい  
んだ……!え、えへへ……もっと、もっと、  
いっぱい感じて、おにーちゃああんっ……!」

唯

「あああ……んっ、はっ……あああんっ……  
ひゃっ、ああっ、んんっ……!んんっ、はっ……  
……ああっ、んっ……はっ、ああっ……んんっ、  
はあんっ……!んくっ……!」

唯

「おにーちゃんの……喘ぎ声……聞こえてきた……  
えへっ……恥ずかしい?でも、私……もっと聞  
きたいな……んんっ……はっ、あっ……んくっ、  
はっ、あああ……!」

---

---

唯

「あー……自分で、口っ、塞いじゃ、だめっ……ん  
んっ……！ そんなこと、する、なら……私が、  
おにーちゃんの口っ、塞いじゃうんだからっ…  
……！」

唯

「じゅぷっ、ちゅくっ……ちゅぱ、ちゅ、ちゅぱ…  
……！ ちゅう、くちゅちゅ、くちゅ……ちゅっ、  
ぷちゅ……！ じゅりゅ、じゅぷっ、ちゅっ、  
ちゅるっ、れろっ……！」

唯

「れろっ、ちゅっ……ちゅぷ……んあっ……！  
んんっ、あんっ、ちゅぱ……！ んあっ……ん  
んっ……！ れろっ、ちゅっ……ちゅぷっ……！  
ちゅっ、じゅぷっ……！」

唯

「ぷあっ……！ おにーちゃんとのチュー……気持  
ちいいっ……！ とろんって、とろけちやいそお  
おっ、あああ……！」

唯

「もっかい、もっかいチューしよお……！ 唇も、  
口の周りも、ぜーんぶ、べろべろって、舐めて、  
あげる……！」

唯

「んちゅっ、じゅぷっ……れろっ、ちゅっ……ん  
ちゅっ、れろっ……ちゅ……ちゅぷっ……ちゅっ  
……ちゅぷっ……ちゅくっ……れろっ、ちゅっ…  
……んちゅっ、ちゅっ……！」

---

---

唯

「んあむっ……ふっ、ちゆくっ、れろ、ちゆる……  
ちゅっ、ふんむ……んえ、ふっ……はぶ、ん、  
ちゅっ……！　じゅりゅっ、れろっ……ちゅっ…  
…んちゅっ、ちゅぶっ……！」

唯

「はあ……！　おにーちゃんのベロも、ちゅうっ  
て、吸って、あげるね……！」

唯

「ちゅううううううう……！　ちゅぱっ！　はあ  
ああああ……もっかい吸うね……ちゅうううう  
ううっ……！　ちゅぱっ！」

唯

「はあっ……おにーちゃんとチューするの……これ  
で何回目だろ……？　んんっ……！」

唯

「ん？　そうだよ……さっきしたのが初めてじゃな  
いよ……ふふふっ……」

唯

「おにーちゃんが寝てる間にいっぱいチューしてる  
もんっ……！　何回も、何回もおっ、ああ…  
……！」

唯

「私の、ファーストキスはおにーちゃんで……それ  
からもおにーちゃんだけで……初めてしたのは、  
もっとなんと前だよ、んんっ……！」

唯

「おにーちゃんだってキスしたらベロを絡めてきた  
よ……！？　ホントに覚えてないの？　んんっ  
……！」

---

---

唯

「……覚えてないんだ……ちょっとショックだよ……でも、これからはいっぱいチューしようね………んんっ………」

唯

「ああっ………私、すっごい濡れてる………おにーちゃんのズボン、私のエッチなお汁で、おっきいシミができてる………」

唯

「ぐちよぐちよってエッチな音、いっぱい鳴ってるよ………あっ、やっ……んっ、はあんっ………ああああっ、んっ、はあああ………」

唯

「じゃ、じゃあ、もっと上手くできそうだから、速く動いてみるね………」

唯

「ひやああああっ………あ、これ、凄いつ！速く動くの、凄いつ！んんっ、はうん！ああああっ、んんっ！はっ、あっ、んっ、あああ………」

唯

「んっ、はっ！あああっ、んんっ！ああっ、はああっ！んっ、んっ！はっ……あああ！んっ、あっ、ひやつ、やあんっ！んんっ、んくっ………」

唯

「奥に、当たるっ！私の、赤ちゃんの、お部屋に当たるのっ、ああああっ！やあんっ！おちんちん、ホント、凄いよおっ！」

---

---

唯

「もう痛いなんて、とつくになくなって、意識が飛んじやいそうなくらい気持ちいいのっ！ おにーちゃんっ、おにーちゃあんっ！ はっ、あっ、んんっ！ はあんっ！」

唯

「ああっ！ んんっ、はっ！ ああっ、んっ！ はっ、ああっ！ んんっ、はあんっ！ あっ、やっ！ んっ、はあんっ！ ああああっ、んっ、はあああ……！」

唯

「おにーちゃんも、口ぱくぱくしながら、涎垂らしてるっ！ そんなに気持ちいいんだねっ！ 私のおまんこで、もっと感じてえっ！ んはっ、ああ……！」

唯

「あっ、はっ、んんっ！ あっ、はっ、んんっ！ はあっ、あああっ！ んっ！ あっ、んっ、んっ、はあんっ、んんっ、んふっ、んふううんっ、んんっ！」

唯

「あ、そうだあ……！ おにーちゃんの乳首、忘れてたあ……！ ほら、私の指で、かわいがってあげるねっ！ んっ、あああっ……！」

唯

「ああ、すぐ乳首、勃起したよっ！ あっ、やだっ、おまんこの中で、おちんちんがおつきくなっただっ！？ 乳首をコリコリって触るたびに、ぷくって膨らんでるう！」

---

唯

「やあんっ！　こんなの、おつきすぎるよおっ！  
だめっ、だめえっ……！　あっ、はっ、んんっ、  
はあっ！　あああっ、んっ！　やっ、あっ、ん  
んっ……！」

唯

「気持ちよすぎて、身体が溶けちゃいそおっ！　お  
まんこ、いいのおっ、凄いのおっ！　あああ  
あっ！　んっ、はっ！　あああんっ！　やっ、ん  
ふうんっ！」

唯

「乳首コリコリするだけで、こんなにおちんちんが  
おつきくなるなんて、もし舐めたら、どうなる  
の！？　おにーちゃん、舐めて欲しいっ！？」

唯

「えへっ！　答えてくれないけど、舐めて欲しいに  
決まってるよね！？　だから、もう乳首に吸いつ  
いちやうんだからあ……！」

唯

「ちゅううううううう……！　ちゅっ、ちゅうう  
ううっ……！　ちゅるっ、ちゅううっ……！」

唯

「ちゅぱっ！　はあっ、おにーちゃんの乳首も美味  
しいっ！　ちゃんと吸ってる間は、反対側の乳首  
をかわいがってあげるからねっ！」

唯

「んふうんっ、ちゅぷっ、んふっ、くちゅ、ちゅ  
ぱっ、んふっ、んんっ、はあむ……！」

唯

「ちゅううううううううううう……！　ちゅぱっ……！」

唯

「今度は反対側の乳首も吸ってあげるからねっ！  
れろっ、ちゅぱっ！ んふうんっ……んんっ、ん  
ぷっ、ちゅちゅっ、ちゅぶ、ちゅうっうっ…  
…！」

唯

「れろ、ちゅぶっ、くちゅ、じゅぶ、じゅぶぶっ、  
れろ、くちゅ、ちゅぱっ、ちゅぶ、んぶっん、  
ちゅうっうっ……！」

唯

「ちゅぶっ、ちゅぱっ、ちゅうっうっうっうっうっ  
うっうっうっうっうっうっうっうっうっうっ  
……っ！」

唯

「ちゅぱっ！ はあああっ……！ ホント、おにー  
ちゃんの乳首、美味しいっ……！」

唯

「んふうっ、れろっ、ちゅぱっ……！ はぶっ、ん  
ふっ、んふうんっ、んはっ……！ んぶっ、ん  
ふうんっ、んんっ！ はぶっ、んんっ、れろ  
ちゅっ、ちゅっ、れろっ……！」

唯

「ちゅぱっ！ はあー……！ ふうー……！ じゃ  
あ、はむって唇で甘噛みしたげるねっ……！ は  
むっ、はむっ……！ んむっ、はむっ……！ は  
むっ、んむっ……！」

唯

「やあんっ！ 乳首をいじってるときのおちんち  
ん、凄いよっ！ あっ！ あっ、ああっ、んっ！  
はあんっ、んんっ、んふうんっ！ んくっ、  
はっ、ああっ、あああっ……！」

---

唯

「ああっ！　なんか、凄いの、来るううっ！　これ、イクって感じなのっ！？　あああっ、やつ、だめっ、これ、だめえっ！」

唯

「気持ちよすぎて頭おかしくなりそうだよお、おにーちゃんああんっ！　あっ、やつ、ああっ、ほんと、だめええっ！」

唯

「おにーちゃんも出そうなの！？　やったっ、嬉しいっ！　私と一緒にイコ？　ギュッて、おまんこ締めてあげるから、初めてのセックスで一緒にイコうよお！」

唯

「ひゃああんっ！　おちんちん、またおつきくなっただああっ！？　あああっ！　ぷくって膨らんで、おまんこの中、擦ってるううっ！　あああああっ！」

唯

「んんっ、んんんんっ！　あああっ！　気持ちよすぎて、勝手に、おまんこ締まっちゃうのおおっ！　やつ、ああっ、こんな、こんなのだめええっ！」

唯

「おにーちゃんの精子、いっぱい欲しいのっ！　だから、おまんこに、いっぱい出してっ！　ああああっ！」

唯

「やああんっ！　私、もうホントに凄いの、来るっ！　イク、イクイク——……」

---



唯

「……はあ。んっ……ふう……はあ……おにーちゃん  
の身体って……おつきいよね……」うやって上  
に乗ってるとよくわかるよ……」

唯

「ねえ、おにーちゃん……私のこと……ギュッてし  
て？ 手錠したままでもできるでしょ？」

唯

「……んっ、そう……そんな感じでギュッて……  
はあ……これ好きい……んっ……」

唯

「やあんっ……また、おちんちんがおまんこの中で  
……ピクピクって動いたあ……えへへ……」

唯

「……はあ。なんだか眠くなって来ちゃったね。  
んー？ おにーちゃんも？ じゃあ、このまま寝  
ちやおうよ……」

唯

「（小声で）うん、それじゃあ……おやすみ。お  
にーちゃん……ちゅっ」

／＼トラック々 おにーちゃんと朝チュン！

唯

「（寝起き声）んー……ふわあ……もう朝なんだ  
……おにーちゃんはー……まだ寝てる……」

唯

「（寝起き声）……やっと……おにーちゃんと一緒  
に寝られた……えへへ……嬉しいな……」

唯

「（寝起き声）……朝起きて、おにーちゃんがすぐ  
隣にいるなんて……幸せ過ぎておかしくなりそう  
……」

---

唯

「（寝起き声）……はあ……おにーちゃんの腕にすりすり……すりすり……」

唯

「（寝起き声）……えへへ。ギュッて抱きついちゃおっと……」

唯

「（寝起き声）……すう——……はあ——……おにーちゃんの濃い匂いだあ……はあ……幸せ……」

唯

「（寝起き声）……ん——寝顔、かーわいーなあ……つんつーん……ほっぺた、柔らかいな……ちゅーしちゃう……ちゅっ」

唯

「（寝起き声）……えへへ……こうやって今まで何回もチューしたんだよね……唇にだって……」

唯

「（寝起き声）……んっ……ちゅっ。このくらいじゃ……おにーちゃんは全然起きないから……だから、もっとしたくなっちゃって……」

唯

「（寝起き声）……今みたいにかわいいチューだけじゃなくて……ねっとりした大人のキスも……」

唯

「……んっ、れろっ……くちゅちゅぶっ……れろれろ……はああん……んんっ……くちゅ……ちゅぶっ……れろっ……ちゅっ……んんっ……あんっ……んああっ……」

---

唯

「……ちゅぷっ……くちゅ……んん……んふっ……  
ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっ……  
……れろっ、ちゅっ……ちゅぷっ……れろっ……  
ちゅぷっ、ちゅっ……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……はあ。おにーちゃ  
んってば、寝ながらベロを絡めてくるんだよね……  
……ホントのおにーちゃんは絶対エッチだよね……  
……」

唯

「……ちゅぷっ……くちゅ……れろれろ……ちゅ  
ぷっくちゅ……んんふ……ちゅむっ……くちゅ……  
……ちゅぷっ……んんふ……れろれろ……ちゅぷっ……  
……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……はあ。美味しい。こ  
のままぶたにもチューしたげるね……」

唯

「ちゅぷ……んあっ……んんっ……あんっ……  
ちゅぱ……んあっ……んんっ……ああっ……  
ちゅぷちゅぷ……んんっ……ああっ……はああんっ  
……あんっ……ちゅぱ……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……ほっぺたにも……」

唯

「ちゅぷ……ちゅぱ……んあっ……ちゅっ……はあっ  
……んあっ……ちゅぱ……ああ……ちゅっ……ん  
あっ……れろっ、ちゅっ……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……反対側もお……」

---

唯

「ちゅ……ちゅぱ……ちゅ……んっ……ちゅぱ……ちゅう……はあ……くちゅちゅ……くちゅ……ちゅっ……ぷちゅ……はあ……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……ほっぺた……美味しかった……んっ……私、コーフンしちゃったよ、おにーちゃあん……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……んっ……おにーちゃんのおちんちは……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……わっ、こっちはおつきしてる（語尾を笑のニュアンスで）。……朝立ちなのかな？ それとも私のキスでコーフンしちゃったのかな……？」

唯

「（寝起きの小さな声で）……ふふっ。ちよっと触っただけなのに熱くって……こんなに硬いのが私のおまんこに入ってたなんて信じられない……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……うー……昨日のエッチ、思い出しちゃったよ。凄かった、おにーちゃんのおちんちん……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……私のおまんこの一番奥まで届いてて……お腹の中、ずんずんって突きあげられて……」

---

唯

「（寝起きの小さな声で）……おにーちゃんの乳首を触ったら、おちんちんはもっとおつきくなって……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……目の前が真っ白になるくらい気持ちいいのに……イクときはもっと気持ちよくて……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……やだあ……私、濡れてきちゃったよお……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……もうガマンできない……朝からセックスしよ、おにーちゃん？ あつつうい精子、私のおまんこにちょーだい……」

／＼トラックのおにーちゃんにフェラと耳舐め！

唯

「（寝起きの小さな声で）……きよーあくなおちんちんが出てきた。えへへ。お口でしたげるね。寝起きフェラチオだよ、おにーちゃん……はむっ……」

唯

「れろれろ……ちゅぷっ……んふうん……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷつくちゅ……ちゅぷ……んあっ……んんっ……あんっ……ちゅぱ……んあっ……」

唯

「（寝起きの小さな声で）……ちゅぱっ。おにーちゃんは寝てるのに……おちんちんはすっごく元気だよお……はあっ……んちゅっ、れろっ、チュ……」

---

唯

「んんっ……くちゅちゅぶっ……くちゅっ、ちゅぶっんっ、くちゅ……れろれろっ、れろれろっ……ちゅむっ……ちゅくんっ、くちゅ……ちゅぶっくちゅ……れろれろ……」

唯

「……あ、おにーちゃんが起きた。えへへ。おはよー……ちゅぶっくちゅちゅむっ……っ、れろれろっ、ちゅぶっくちゅんっ、ちゅぶっ……」

唯

「んー？ 何してるのかって？ 見てわからない？ おちんちん、しゃぶってるんだよー？ はむっ……ちゅっ、れろっ……ちゅぶっ、ちゅっ……んちゅっ、れろっ……」

唯

「あ、手錠したままだったね。でも、ちようどいや。このまま私に任せて……」

唯

「んちゅっ……れろっ、ちゅぶっ……ちゅっ、んちゅっ……れろれろっ、ちゅぶっ……ちゅっ、ちゅうっ……」

唯

「朝から、こおーんなにおつきくしてるんだもん。これって早く私に中出ししたいってことだよね？」

唯

「えー？ 血のつながりなんてカンケーないよ。私、おにーちゃんが好きなんだもん」

---

唯

「もっとおつきくなーれ……はむっ。ちゅぷっ……  
んっ、くちゅ……んちゅちゅぷっ……れろれろ……  
……ちゅむっ、んっ……くちゅ、れろっ……んっ……  
……ちゅぷっ……」

唯

「……はああ……ちゅぷっ……くちゅ……！  
ちゅく……れろれろ……ちゅぷっ……くちゅちゅ  
むっ……はああ……ちゅくちゅぷっん……ちゅ  
ぷっ……れろれろ……」

唯

「んふふっ……おつきになったあ……はあ……すっ  
ごい硬いねえ。でも、まだ入れてあげない。もっ  
といーっぱい、おにーちゃんをかわいがってあげ  
るね……」

唯

「例えばあー……玉袋。キンタマってゆーの？ こ  
こを吸ったり舐めたりしたげる……」

唯

「ああっ……ちゅぷちゅぶ……んんっ……ああっ……  
れろっ、ちゅ……あんっ……ちゅぱ……れろっ……  
……んああっ……ちゅぷちゅぱ……んあっ……  
ちゅっ……ああんっ……んあっ……」

唯

「反対側のキンタマも……はむっ」

唯

「ちゅば……れろっ……あんっ……んあっ……ちゅ  
……ちゅぱ……ちゅ……ちゅぱ……ちゅう……れ  
ろれろっ……くちゅちゅ……くちゅ……ちゅっ……  
……ぷちゅ……ちゅぷっ……」

---

唯

「ちゅぱっ！ えへへ……キンタマ吸ったり……気持ちよかったでしょ？ 他の場所もたくさん舐めてあげるね……」

唯

「はい。おにーちゃんの顔の側にやってきましたー。ふふっ……かっこいい顔がすぐ側に……ちゅっ……れろっ、ちゅっ……」

唯

「おにーちゃんが寝てるときもキスしたんだよー？ で、これかおにーちゃんが起きてから初めてのキス……ちゅっ、れろっ、ちゅぷっ……んちゅっ、ちゅぷっ、れろっ……」

唯

「もー。おにーちゃんもベロを絡めてきて。その方が気持ちいいでしょ？ ほら……ちゅく……れろれろ……ちゅぷっく……はああ……んっ……あああ……ちゅむっ……くちゅ……」

唯

「ああっ……気持ちいいっ。ベロとベロが擦れて、身体中がとろんってなっちゃうっ……！ んぷっ……ちゅぷっくちゅ……れろれろ……ちゅぷっ……くちゅう……んふうっんっ……」

唯

「ちゅ、ぷっくちゅ……れろっ、ちゅっ……ぷあっ。はあー……おにーちゃんの口が涎だらけになっちゃったね……ふふふっ……変な顔……」

---

唯

「私だけに見せる顔だね。ふふふっ。じゃあ、今度はねー……お耳を舐めてあげる……これ、おにーちゃんみたいなエムっぽい人は、大好きなんですよ？」

唯

「（耳元でささやくように）……ほら……こうやって……囁きながら……お耳を舐めるの……どーお？　して欲しくない？」

唯

「（耳元でささやくように）……ふふふっ……して欲しいんだあ……じゃーあー……舐めて、あ、げ、る……ちゅっ。んんっ……れろっ、んちゅっ……んちゅっ、ちゅぷっ……」

唯

「……んちゅっ……れろっ、んぷっ……ちゅっちゅっ、れろれろっ、ちゅぷっ……れろっ、んちゅっ、れろっ……はあ……んん……ちろっ、れろっ……ちゅく、ん、ちゅぷっ……」

唯

「（耳元でささやくように）ああ、おにーちゃんが感じてるっ……ふふふっ……お耳も気持ちいいんだ……じっくり舐めてあげるね……れろ、ぺろお……れろ、んちゅろ、れろお……」

唯

「ちゅぷっ、ちゅぱっ……んちゅっ、ちゅっ、れろっ……ちゅぷっ、ちゅぱっ……ちゅぷっ、くちゅ……んんっ……れろれろ……くちゅ……んふっ……ちゅむっ……くちゅ……」

唯

「（耳元でささやくように）……ん……じゃあ、反対側のお耳もしたげるね……」

唯

「（耳元で囁くように）……」っちのお耳も、れろれろ……ちゅぷつくちゅ……ちゅぷつ……くちゅ……れろれろ……くちゅ……んふつ……れろれろ……ちゅぷつくちゅ、くちゅ……」

唯

「れろれろ……んちゅつ……れろれろ……んんつ……れろれろ……ちゅむつ……くちゅ……んん……ちゅぷつくちゅ……んっ……ちゅぷつ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷつ……」

唯

「（耳元で囁くように）……耳たぶもちゅーってしたげるね……」

唯

「ちゅつ、ちゅうつうつうつうつうつうつ……！ちゅぱっ！　はああああ……おいち。ふふつ……」

唯

「（耳元で囁くように）……私、もっとおにーちゃんを舐めたくなってきたやつたよ……だから、このまま首筋も舐めてあげるね……」

唯

／＼トラックのおにーちゃんに首舐めからたつぷりと全身リップ！  
「れろっ、ちゅっ、れろ……れろれろ……んはっ……ふふふっ……首筋、くすぐったい？　舐めるたびに、おにーちゃんってば、ぴくぴくしてる……」

---

唯

「ん？ そーお？ 気持ちいいんだ……えへへ……  
もっと感じてね、おにーちゃん……れろっ……く  
ちゅ、ちゅむっ……んんっ……くちゅ……んふっ  
……れろれろ……ちゅっ……」

唯

「……んちゅっ……くちゅ……ちゅぶっ……んふっ  
……ちゅぶっ……れろれろ……れろれろ……ちゅ  
ぶっ……れろれろ……ちゅむっ……くちゅ……  
ちゅぶつくちゅ……れろっ……」

唯

「……はあ。このままキスマークつけちゃお……  
ちゅうううううう……！ ちゅぱっ！ もっ  
かーい……ちゅううううううううううううううう  
うううううう……」

唯

「ちゅぱっ！ んー……まだ薄いかなあ？ もっと  
はつきりしたのをつけなきゃ……ちゅうううう  
うううううううううううううううううううう  
うううううう……！」

唯

「ちゅぱっ！ ……うん。キスマークついた。お  
にーちゃんの身体に、私のシルシがついたよ。え  
へへ……。ちゅっ……れろっ……んっ……ちゅっ  
……」

唯

「じゃあ、次はおにーちゃんの大好きな乳首、だ  
よっ」

---

唯

「ああ……乳首がもう勃起してる……触ってないのに……すっごくコーンしてるんだね、嬉しい……」

唯

「私もね……おまんこ、とっくにぐちよぐちよだから……ふふふっ……いつでも入れられるけど、まだガマンしてね。乳首もお腹も足もまだ舐めてないんだから……」

唯

「じゃあ、おにーちゃん乳首、いただきまーすっ……」

唯

「ちゅうっうっうっう……！　ちゅぱっ！　はあ……おいち。んー……ちゅっ……れろっ……ちゅぷっ……くちゅ……ちゅぷっ……れろれろ……んふうん……ちゅむっ……」

唯

「反対側の乳首は指でコリコリしたげるからね……くちゅちゅぷっ……れろれろ……はああん……んんっ……くちゅ、ちゅぷっ……ちゅぷっ、くちゅ……んん、ちゅむっ……」

唯

「おにーちゃんが仰け反ってる……乳首、ホントに気持ちいいんだね……ふふふっ。もっと舐めてあげる……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっ……れろっ、ちゅっ、れろっ……」

---

唯

「甘噛みをしたげるね……はむっ……はむっ……れ  
ろっ……はむっ……ちゅぷっ……くちゅ……は  
むっ……れろれろ……ちゅぷつくちゅ……んんふ  
……ちゅむっ……はむっ……」

唯

「ふふふっ……反対側の乳首も……ちゅううう  
うううっ……！　ちゅぱっ！　はあ……れろっ、  
くちゅ……ちゅぷっ……んふ……れろれろ……  
ちゅぷっ……れろ……ちゅぷっ……」

唯

「甘噛みも……はむっ……はむっ……れろっ……  
はむっ……ちゅうううっ……はむっ……れろっ……  
……くちゅ、ちゅぷっ……くちゅっ、ちゅぷっ  
んっ、くちゅ……はむっ……」

唯

「れろれろっ、れろれろっ……ちゅむっ……んふう  
ん……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅ  
ぷつくちゅ……ちゅくんっ、くちゅ……ちゅぷっ  
くちゅ……んれろおっ……」

唯

「はあ……舐めてる私がコーンしちゃうよお……  
ちゅぷっ……んっ、くちゅ……れろっ……くちゅ  
……んん……れろっ、ちゅっ……ちゅぷっ……れ  
ろっ、ちゅっ……んんっ……」

唯

「ちゅぷっ……くちゅ……ちゅむっ……っ、れろれ  
ろっ、ちゅぷっ……くちゅんっ、ちゅぷっ……ん  
ちゅ、ちゅぷっ……れろれろ……ちゅむっ……く  
ちゅ……んっ……ちゅぷっ……」

---

---

唯 「はあー……こーゆーの全身リップ、ってゆーんでしょ？ 知ってるんだから」

唯 「どうして、そういうエッチな言葉を知ってるのかって？ だって、いろいろ勉強したんだもんっ。おにーちゃんをコーフンさせたくて……」

唯 「私みたいなかわいい妹が、おまんこって言ったらドキドキするでしょ？ コーフンするでしょ？ ほら……おまんこ……おまんこ……って……」

唯 「ふふふっ……おにーちゃんのおちんちん、ぴくってなったね……後でいっぱい言ってあげるからね……」

唯 「じゃあ、このままお腹にもー……ちゅっ。えへへ……くすぐりたい？ お腹はダメ？ んー、くすぐったいだけなら舐めても仕方ないかー」

唯 「でも、おにーちゃんのお腹も好きだよ。すりすり……すりすり……えへへ。くすぐりたい？ じゃあ、おへそに……ちゅっ」

唯 「このまま下がるとおー……元気なおちんちんがあるけど、ちよっとだけ待っててねー……ちゅっ」

唯 「おにーちゃんの内股をチュッチュしたげる……ちゅっ……くちゅ……ちゅむっ……はあああ……ちゅく……ちゅぷっん……ちゅぷっ……れろれろ……ちゅっ……」

---

---

唯

「反対側もー……ちゆく……れろれろ……ちゅぷつく……はああ……ちゅつ……れろれろっ、ちゅつ……んっ……はああ……ちゅむっ……ちゅぷつ……れろっ、くちゅ……」

唯

「ふふふ……くすぐったい？ 気持ちいい？ ふーん……内股は結構気持ちいいんだ……れろっ……れろっ……れろお……ちゅつ……れろっ……ちゅつ……ちゅぷっ……」

唯

「このまま膝の裏にもー……ちゅつ……ふくらはぎもー……ちゅつ。ん？ なあに？ それ以外、どこを舐めるのかって？ おにーちゃんの足の指だよ」

唯

「感じる人は凄く感じるんだって。おにーちゃんはどーかなー？」

唯

「……はむっ……んちゅっ……れろっ……じゅぷつ……ちゅつ……ちゅぷつ……はああ……ちゅぷつ……くちゅ……ちゆく……じゅぷつ……じゅりゅっ……じゅぶぶぶっ……」

唯

「どーお？ 気持ちいい？ ん？ ……あ、答えないうてことは、気持ちいいんだ。じゃあ、もつと舐めてあげるね……」

---

唯

「じゅぶっ……じゅぶぶぶう……れろれろ……ちゅぶっ……ちゅぶっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぶっ……くちゅう……んふうっんっ……ちゅぶっくちゅ……」

唯

「はぶっ……じゅぶっ、じゅりゅっ……ちゅくん、ちゅむっ……んふっ……ちゅく……れろれろ……ちゅぶっ……れろれろ……くちゅ……れろっ、ちゅぶっ……じゅっ……」

唯

「ぶあっ……親指から小指までぜーんぶ舐めたよ……えへへ……じゃあ、こっちの足も……」

唯

「じゅぶっ……じゅぶぶぶっ……ちゅくちゅく……れろれろ……ちゅぶっ……くちゅ……はあんっ……ちゅぶっくちい……んっ……ちゅうっ……じゅりゅう……ちゅっ……じゅっ……」

唯

「おにーちゃんの足の指も美味しい……ちゅむっ……くちゅ……れろん……はあんっ……ちゅぶっくちゅ……んっ……ちゅぶっ……はぶっ……ゅっ……んちゅっ……れろっ……」

唯

「ちゅぱっ……はあ……じゃあ、最後はすっ……いとこを舐めてあげるね。四っん這いになって」

唯

「何をするのかって？ いーから早くー。痛いことじゃないから安心して」

---

唯

「そうそう。そんな感じ。ああ、おにーちゃんが恥ずかしいところが丸見えだよお……ん？ うん、そうだよ。お尻の穴……ここをね……ベロベロって舐めてあげる……」

唯

「やめろって言ってもやめないよーっだ。おにーちゃんこそ手と足に手錠されてても少しは動けるよね？ でも抵抗しないよね……？」

唯

「それって……私の好きにしていってことじゃん。全然ゴーインなりクツじゃないよ」

唯

「あつ、だめっ……！ 逃がさないんだから……！  
んちゅっ！ ちゅっ……！ ちゅくっ……！  
ちゅぷっ……！ んっ……ちゅむっ……はっ……  
……！ れろれろっ、ちゅっ……！」

唯

「ふふふっ……お尻の穴を舐めたら、おにーちゃんの身体から力が抜けちゃったね……ここ、そんなに弱いんだあ……ん？ 自分でも知らなかった？」

唯

「そっかあ……私が見つけたんだ、おにーちゃんのセーカンタイ。アナルが弱点だなんて……おにーちゃんってば、ほんとドMだよ。そういうところを知ってるの、私だけだからね」

---

唯

「んー……ちゅっ……！　れろっ、ちゅぷっ……！  
れろれろっ、んちゅっ……！　ちゅぷっ、  
ちゅっ……！　ちゅぷっ、くちゅ……！　れろれ  
ろ、ちゅくん……！　んちゅぷっ……！」

唯

「ああ……おにーちゃんのアナルって変な匂おー  
い。でも、好きだよ、私。舐めるたびにヒクヒ  
クってなるのも、おにーちゃんがアンアンって喘  
ぐのもだーいすきっ……ふふふっ……」

唯

「このままお尻の穴を舐めながら、おちんちんをシ  
コシコしたげるね。だから、もっと喘ぎ声を聞か  
せて……」

唯

「わっ、おちんちん、さっきよりおつきくなってる  
……！　そんなにコーンしてるんだー……ふふ  
ふっ……もっと気持ちよくしたげるからね……」

唯

「んー……ちゅうううううううううううううう  
うううう……！　ちゅぱっ……！」

唯

「ふふふっ……いきなり強く吸われてびっくりしで  
しょ？　おちんちんもピクピクって震えたよ？  
もうガマンできないから激しくしちゃうね……」

唯

「んー……ちゅぷっ、んふっ、くちゅ！　ちゅ  
ぱっ、んふっ、んんっ！　はあむ、れろっ、ちゅ  
ぱっ！　んふうんっ……んんっ、んぷっ、ちゅ  
ちゅっ！　ちゅぶ、ぶぶぶっ、はあ……！」



唯

「れろ、ちゅぶっ、くちゅ！　じゅぶ、じゅぶぶっ、れろ、くちゅ！　ちゅぱっ、ちゅぶ、んふっん、ぶぶぶっ……！　ちゅぱっ！」

唯

「おにーちゃんが、すっごい喘いでるっ！　そんなんだ！　もう精子、出ちゃうんだね……！　じゃあ、このまま——」

唯

「——って、まだダメー。ふふふっ……おにーちゃん、泣きそうな声してる……。どうしてって？　だって、朝一番の濃いくい精子は、私のおまんこに出さなきゃ……ね？」

／＼トラック」おにーちゃんと幸せすぎる濃厚エッチ！

唯

「ほら。起き上がって、おにーちゃん。膝立ちするの。手足に手錠がかかっててもできるでしょ？」

唯

「そう。そんな感じ。それで……ね？　私はこうやって……」

唯

「四つん這いになって、おにーちゃんのお尻を向けるの……丸見えでしょ？　私のおまんこ……」

唯

「ねえ、おにーちゃん……このまま入れてえ……バツクって言うんでしょ？　この体位……。してみたいの……獣みたいにいっぱいついて、私のおまんこぐちゃぐちゃにしてえ……」



唯

「あっ……！ あっ、ふっ……！ んっ、はあんっ……！ あんっ、あああっ、んんっ、はあ……！ あふっ、んんっ……！ ひゃっ、あっ……！ んくっ、んふうんっ……！」

唯

「おにーちゃん、ゆっくり突いてるのに、気持ちいい、いいっ……！ おにーちゃんの上に乗ってするのと、擦れるところが違うううっ……！ 後ろからするのも、いいっ……！」

唯

「私の乳首、触ってないのに、びんびんに勃起してるよおっ……！ はっ……！ んんっ、はっ……！ あっ、やっ、んんっ……！ んふっ、はあんっ……！ あふっ、んんっ……！」

唯

「えっ、もうイキそうなの、おにーちゃん！？ そうだね、あれだけアナル舐め手コキしたんだもんねっ……！ イッっていいよ……！ んんっ、はっ……！」

唯

「あっ！ 突くの、速くなったあっ！ んんっ！ 私も気持ちいいよおっ！ ああっ！ いつでもいいから出して！ おにーちゃんの精子、私のおまんこにぶちまけてえ……！」

唯

「ひゃああああああ……っ……！ 出てるっ！ おにーちゃんの精子、私のおまんこに、いっぱい出てるうっ、ああああ……！」

---

唯

「もっと、もっとちょーだあいつ……！ 朝イチの  
すっごい濃いくい精子、欲しいのおっ、あああっ  
……！」

唯

「んんっ……！ いっぱい出てるっ！ 嬉しいっ…  
…… ああああ……！ お腹の中、あつつい  
よおっ……！ 体温、上がっちゃいそおっ…  
……！」

唯

「あくっ……！ はあー……ふうー……いっぱい出  
したね、おにーちゃん……。じゃあ、ゆっくりお  
ちんちんを抜いてみて……」

唯

「んっ……んんっ……ゆっくり引き抜く時も気持ち  
いい……！ はっ……あああ……」

唯

「はあ……おちんちん抜けたね……じゃあ、おにー  
ちゃん……私のおまんこ見て……おにーちゃんの  
精子、いっぱい入ってるでしょ？ 見える？」

唯

「お尻ふりふり……ほら、見えるでしょ？ 私の  
エッチなお汁と、精子がぐちよぐちに混じっ  
た、いやらしい液体が……」

唯

「……あっ。やだっ……垂れて来た……！ んんっ  
……もったいないから漏れちゃだめっ……んっ、  
おまんこ、締めればっ……！」

---

---

唯

「やあんっ！ 締めたらもつと出てきちゃったあ！  
もったいないよお……おにーちゃんの精子、お  
腹に入れておきたいのにこぼれないでえ……！」

唯

「あ、そっか。手で抑えればいいんだ……ひゃっ！  
おにーちゃん？ 私の手をつかんで邪魔しないで。  
おまんこにフタするんだからあ」

唯

「ひゃあ！ お、おにーちゃん！？ 私の身体、強  
引に仰向けにしてどうするの……？」

唯

「……あっ、おちんちんが、すっごく大きくなって  
る！？ 反り返ってて、なんだか凶悪だよお……  
……！ こんな見たことない……！」

唯

「しかも、おにーちゃんがフー！ フー！ って  
言ってる！？ ロボットみたいになってる……  
……！」

唯

「もしかして、すっごいコーンしてる？ そ、そ  
うなんだ……してるんだ……」

唯

「えっ？ このまま入れるの？ 正常位で？」

唯

「ひゃあっ！ また、おちんちん、入って……来  
るっ！ んんっ、んんんんんっ……！！ やっ  
ぱりさっきよりずっとおっきいよおっ……！！」

---

唯

「でも、大丈夫だから入れて、おにーちゃん！ 初  
めておにーちゃんからしてくれるんだもんっ…  
…私、嬉しくて、ちよつと感動だよお…  
…！」

唯

「ああああっ……………」

唯

「全部入った！？ これで全部っ…………なんだ…………！  
正常位ってこんな奥まで入るんだね…………すこお  
いっ…………！」

唯

「あっ…………！ やっ…………！ んんっ…………！ おにー  
ちゃんが動いてくれてる…………！ 嬉しいっ…………！  
とつても気持ちいいよ、おにーちゃんっ…  
…………！」

唯

「んっ、はっ…………！ あっ、んっ…………！ はっ、あ  
ふ…………！ あああんっ…………！ はっ、あっ…  
んっ…………！ はあんっ、んんっ…………！ はっ、んっ…  
…！ はっ、あっ、んっ…………！」

唯

「なんだか、お腹の下の所が擦れる…………！ 擦れ  
て、いいっ…………！ 気持ちいいよおっ…………！  
はっ、あああ…………！ ひうっ…………！ うううっ、  
あっ、んんっ…………！ ひゃっ…………！」

唯

「おにーちゃんのおちんちん、すっごいっ…………！  
おつきくて、硬くて、熱くて、身体中がびりび  
りするくらい感じちゃうよおっ、あああっ…  
…………！」

---

唯

「んっ、はっ、あっ……！ んう、はあんっ……！  
あっ、ああっ、んう、はっ、あああ……！  
あ、んっ、はっ、んふっ……！ んっ、はっ、  
あっ……！ んんくっ、あっ……！」

唯

「あああんっ……！ 私、おにーちゃんのこと、ホ  
ントに好きっ……！ 真面目なところも優しいと  
ころも、ときどき冷たいところも全部好きなのっ  
……！」

唯

「だから、おにーちゃんからしてくれて、嬉しい  
よおっ……！ はっ、あああ……！ んっ……！  
はあんっ、んっ……！ あっ、やっ……！」

唯

「えっ、何……！？ おにーちゃんも、私のこと、  
好き？ 好きになったの……！？ かわいいとい  
ろも、声も仕草も、全部好き……！？」

唯

「ホント！？ それホントなの！？ うんっ、う  
んっ……！ ホントなんだ！ 嬉しいっ！ 嬉し  
いよ、おにーちゃんあんっ！」

唯

「私も好き！ おにーちゃんと一緒にいられたら他  
に何もいらないうって大好きなのっ！ ああっ、ん  
んっ、はあんっ……！」

唯

「だから、おにーちゃんが枯れちゃうくらい、何回  
も中出し、してえ……！ ああああっ……！」

---

---

唯

「たくさん出して欲しいから、おにーちゃんの乳首、きゅって摘まんであげるね……！ ああっ！ やっぱりおちんちんが、おまんこの中でぷくつて膨らんだあ……！」

唯

「ひゃっ！ あああっ！ ぱんぱんってエッチな音、すっごい鳴ってるうっ！ こんな激しすぎるよおっ！ あっ、んんっ、はあんっ、んん！ あああ、んん、んふっ！」

唯

「乳首、コリコリってしたげるの、忘れちゃいそおっ！ ううん、そんな心配しないで、おにーちゃんっ！ ちゃんとコリコリしたげるからあ！」

唯

「あああっ、あああっ！ あんっ、はあんっ、んっ、あっ、あああっ！ んんっ、はっ、あっ、はああっ、あっ、ああああっ、んんっ、はあんっ！ んんっ、やああっ！」

唯

「この、正常位ってカッコ、恋人って感じがして嬉しいっ！ おにーちゃんから、これ、してくれたのが、ホント嬉しいのっ、あああっ、んくっ、はあああっ！」

唯

「だって、キスだって簡単にできちゃうでしょおっ……！ あっ、ウソ、おにーちゃんからキスしてくれるのっ!? して、チューして、おにーちやあんっ！」

---

唯

「んちゅ……！　ちゅぷっ、じゅぶぶっ……！  
ちゅぷっ、ちゅぱ、んちゅっ……！　ちゅっちゅ  
……！　ちゅぱっ、んちゅ、じゅぶ……！　ちゅ  
ぷっ、ちゅくんっ……！」

唯

「ちゅぱ、んちゅっ……！　ちゅるっ……！  
はあ！　美味しい……！　んちゅ、れろっ、ちゅ  
ぱっ、んちゅ……！　れろ、ちゅっ、ちゅぷっ…  
…！」

唯

「はあっ！　チューしながらおまんこ突かれるの、  
すっごい気持ちよくて幸せだよおっ！　もっと、  
もっとお！」

唯

「はぶっ！　じゅぶ、じゅりゅ……！　ちゅぶ  
ぶっ、ちゅぱ、ちゅぶ、ちゅくっ……！　ちゅぶ  
ぷっ、ちゅぱ、んちゅ……！　ぴちゅ、くちゅ…  
…！　んん……！　んふっ……！」

唯

「おにーちゃんもチュー、気持ちいいでしょ！？  
んっ？　乳首も気持ちいいのっ！？　ふふっ、こ  
のまま中出しするまでいじってあげるから  
ねえっ！　はあんっ！」

唯

「はぶっ！　くちゅぴちゅ……！　んちゅ、じゅ  
ぶ、じゅぶぶぶ……！　んちゅ、れろっ、ちゅく  
……！　ちゅぱっ、んちゅ……！」



唯

「ぎゅぅぅぅぅぅぅ……!! んっ、あっ！  
奥まで届く！ 子宮まで絶対届いてるっ！ す  
ごっ、あっ、んっ、はっ、ああっ、あああっ、ん  
んっ、はっ、あああああっ！」

唯

「あ、イク、私、もう無理い！ イク、イクイクー  
——!!」

唯

「イクぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ  
ぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ  
ぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ  
ぅぅっ……!!」

唯

「あああっ！ すっごい勢いで出てる！ おにー  
ちゃんの精子、出てるぅぅぅ！ 熱い、熱い  
よおっ！ あああっ！」

唯

「もっと、もっといっぱいちょーだいっ！ おまん  
こ、溢れちゃうくらい、ちょーだい、おにーちゃ  
ああんっ！」

唯

「私も、おまんこ、締めてあげるからあっ！ ああ  
んっ！ また出たあっ！ 嬉しいいっ……!!  
んんっ……はっ、あああっ、んんんっ……!!」

唯

「んぶっ!? んんっ！ んっ！ んんっ！ ん  
ちゅっ、れろっ、ちゅっ……!! んんっ……  
ちゅっ、ちゅぱっ……!!」

唯

「中出しされながらチューされるの、すっごく幸せっ！ もっと、もっとお、おにーちゃあんっ！」

唯

「んんんっっ！ んーっ！ れろっ、ちゅ、ちゅぱっ、くちゅっ……！ じゅぶっ……んんん……！ あんっ……じゅぶっ、れろっ、ちゅぱ、ぶちゅ、んっ……！」

唯

「ぶえろ、れろ、んくっ、れろれろ、ちゅっ……ぺろお……！ ちゅぱっ……！ はっ！ あっ……！ かはっ！ はあああああ——……！ ……」

唯

「ああああ……目の前が……真っ白になっちゃうくらい……イッちゃったあ……もう力……入らないよお……ああ……」

唯

「……全部出たあ？ ふふふっ……出たんだあ……。おにーちゃんの精子、ぜーんぶ、私のおまんこで受け止めたからね……。絶対子宮に届いてるよ……」

唯

「……あっ、やだ。精子が出てきたあ……漏れちゃわないように、おちんちんでフタしてて……あっ……んんん……」

唯

「んんん……！ イッたばかりだから、おにーちゃんがちょっと動くだけで敏感に感じちゃった……。でも、これでしっかりフタできたね……」

---

唯

「……あつ。おにーちゃん、息切れしてる……？  
力入らないの……？　じゃあ、私の身体に倒れて  
きていいよ……おにーちゃんの体温を感じたいの  
……」

唯

「……んっ……私、おにーちゃんに包まれてる…  
…ギュッてされてるみたいで気持ちいい……」

唯

「……あつ、ホントにぎギュッしてくれるの……嬉  
しいよお……」

唯

「（耳元で囁くように）……私もおにーちゃんに抱  
きつくの。おにーちゃんももっとギュッとしてえ  
……力入れても大丈夫だから……んっ……その  
くらい……んっ……はあ……」

唯

「（耳元で囁くように）……中出しエッチした後  
に、こーやって抱き合うの……ちょー幸せだ  
よおー……」

唯

「（耳元で囁くように）……ずっと一緒にいよう  
ね。大好きだよ、おにーちゃん……」

//おわり